

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団 洛和会	代表者	矢野 一郎	法人・ 事業所 の特徴	母体は京都市山科区にある音羽病院の介護事業部門の施設。同会においては市内で5番目、平成26年4月にここ竹田・住吉学区で初めての小規模多機能サービスとして設立。「地域に頼りにされる施設」をモットーに日々、取り組んでおります。また月々定例の催しを開催して活発な地域交流が自慢の施設です。
事業所名	洛和小規模多機能 サービス伏見竹田	管理者	小北 稔美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	1人	0人	0人	1人	0人	2人	0人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	今回の自己評価は初回という事もあり、非週3日以下の非常勤さんは含まずでの実施にて今回は在籍スタッフ全員で実施したいと思えます。	非常勤にも参加してもらい、全職員で取組みが出来た。	全体で自己評価に取り組まれておられ、職員の意見もしっかり記入され改善計画にも反映されていると思います。	改善計画にそって取組みを行い、自己評価をすることで事業所の強みや弱みを理解しさらなる発展に努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	施設内のインテリア(装飾)については今後、より一層「まとまり感」を意識して取り組んでいきたいと思えます。	施設内の装飾も子供っぽくならない様に工夫をこらして取り組むことが出来た。	玄関にウェルカムな雰囲気の装飾が見られ入りやすい工夫はされている。 玄関前に花壇があり手入れもされ清潔感を感じられる。	中だけでなく外回りの清掃もしっかりおこない、季節感のある装飾を玄関に展示したり外部の方が入りやすい雰囲気作りに取り組む。
C. 事業所と地域のかかわり	次年度も引続き幼老の2本柱を視野に入れた関わりを実施予定。老側は一層の成熟を目指し、幼側(小学校)は保護者まで幅が広がる様な取組みを目指したい。	サロンの実施や竹田ネットワークとの開催で小学校で認知症サポーター講座を行い、その保護者も参加していただくことができた。	地域の方がどこまで事業所を知っておられるかは分からない部分もあるが、サロンを開催され積極的に地域とのつながりをもたれていることはとてもよいことだと思う。	地域の方に向けた見学会を毎月実施し、相談しやすい事業所のアピールを行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	今まで築き上げた人脈(ネットワーク)を活かして、新しい社会資源の発掘と参加で更なる地域貢献と交流を深めていきたい	民生委員会議にも参加し、竹田ネットワークにも参加情報交換を行う取組みが出来た。	地域の方との交流はサロンやイベントで活発にされていると思う。心配ごとなど気軽に相談できる場所としてこれからもかかわりを深めて欲しい。	イベントやサロンをつかって相談しやすい場所作りをおこない、地域との関係性を大切にしていく。又地域の情報を知るための取組みを行う。(介護相談会など)
E. 運営推進会議を活かした取組み	施設を更に知って頂くために、カフェや吹き矢教室の方々の近況把握も目的に次年度は運営推進会議へのお誘い参加も目指していきたい。	運営推進会議の目的や理解を深めてもらう活動が出来ていなかった。	報告会だけになりがち、地域の課題を話し合いそれにむけた活動をおこなえるような会議になってほしい。施設の不適合、ヒヤリハットの改善策をくわしく説明されていないと感じる。	運営推進会議の目的を理解していただき、気軽に参加し困りごとや心配ごとなど気軽に話合える場所として地域にも貢献できるような会議作りをしていく。

<p>F. 事業所の 防災・災害対策</p>	<p>有事の避難場所として機能するためにまずは施設としての役割を具体的に挙げて体制を整えていきたい。</p>	<p>災害時の事業所として地域での役割が明確になっていない。 地域の方の意見を聞く機会が必要であったと思う。</p>	<p>防災計画はわかりやすい場所に掲示したほうがよいと思う。 事業所の防災訓練を地域の方が参加できるような取り組みをしてもらえたらと思う。</p>	<p>防災計画書を明確に、誰もがわかるように掲示する。また、災害時の事業所としての役割など地域とともに考えて取り組んでいく。</p>
----------------------------	--	--	---	--